

### 3. 6 茨城県での活動

#### 茨城県健康生きがいくくりアドバイザー協議会

##### 1. 事業の概要

###### (1) 事業の目的

- ① 避難されている方々が、やりがいを持って生活できるように支援すること
  - ② 蕎麦の有機栽培や蕎麦打ち会に参加することによって、農作業の楽しさを感じてもらふこと
  - ③ 避難者同士及び避難先の人々との心の交流を図ること
- 上記3つを通じて、生きる喜びや生きがいを感じてもらい、復興に向かって勇気をもって努力していただくよう支援すること

###### (2) 事業の実施体制及びその他の関係団体等との連携

###### 1) 実施体制

茨城県健康生きがいくくりアドバイザー協議会の会員8名と、水戸市近郊の賛同者の10名が水戸市内の遊休畑3反歩を借り上げ、蕎麦の有機栽培や蕎麦打ち会などの事業を推進し、避難者に参加を呼び掛けて実施した。

###### 2) 関係団体との連携

###### ①NPO「ふうあいねっと」との連携

この団体は茨城県内の、主に福島県からの避難者支援を目的としたNPOで、県内の市町村とタイアップして、避難者向けの情報紙を発行し、支援のための各種イベントを企画実施している。避難者への案内文の配布に「ふうあいねっと」と市町村とのネットワークを一部活用した。

###### ②NPO「おたがいさま」との連携

この団体は常陸大田市を拠点に、農作業や健康体操、各種イベントを実施している団体で、避難者にも呼び掛けて一緒に活動している。この団体と交流して、双方の事業に参加し合う形で連携した。

### (3) 実施した事業の概要

#### 実施日

- 1) 避難者に蕎麦有機栽培を楽しんでいただく事業
  - ①平成 24 年 9 月 16 日 資材保管用小屋拡張作業 避難者 2 名と実施
  - ②平成 24 年 10 月 16 日 蕎麦刈取用コンバイン整備 避難者 1 名に指導依頼
  - ③平成 24 年 10 月 19 日 蕎麦刈取用コンバイン修理 避難者 1 名に指導依頼
  - ④平成 24 年 11 月 4 日 蕎麦刈取 避難者 4 名参加
  - ⑤平成 24 年 11 月 18 日 蕎麦唐箕掛け 避難者 5 名参加
- 2) 避難者に蕎麦打ちを楽しんでいただく事業
  - ①平成 24 年 8 月 25 日 第 1 回蕎麦打ち会 笠間市で実施 避難者 2 名参加
  - ②平成 24 年 10 月 21 日 第 2 回蕎麦打ち会 水戸市で実施 避難者 21 名参加  
連携先の NPO「おたがいさま」メンバーも参加
  - ③平成 24 年 12 月 2 日 第 3 回蕎麦打ち会 水戸市で実施 避難者 5 名参加
  - ④平成 24 年 11 月 26 日 NPO「おたがいさま」主催の蕎麦打ち会に参加  
避難者 6 名参加

#### 事業場所

上記実施日欄の(1)事業は水戸市大場町の遊休畑3反歩

上記実施日欄の(2)事業は笠間市社会福祉会館(1回)と水戸市(2回)の市民センターで実施

事業の対象：福島県原発事故避難者

#### 事業の内容

- 1) 避難者に蕎麦有機栽培を楽しんでいただく事業
  - ①平成 24 年 9 月 16 日 資材保管用小屋拡張作業 避難者 2 名と実施  
農機や資材を保管する小屋(ビニールハウス)が手狭になったので、1間長く拡張する作業と、天板を張る作業を行った。避難者の内1人は本職が大工さんで、手際よく作業を進めることができた。久しぶりに大工の仕事ができて楽しかったと好評だった。



②平成24年10月16日 蕎麦刈取用コンバイン整備  
米・麦刈取用の中古コンバインを蕎麦用に改造する作業を行った。避難者の中に農機具修理専門家がいたので、指導をお願いした。

避難者1名に指導依頼



③平成24年10月19日 蕎麦刈取用コンバイン修理  
コンバインを蕎麦用に改造する作業の追加を行った。避難者の農機修理専門家に指導をお願いした。

避難者1名に指導依頼



④平成24年11月4日 蕎麦刈取 避難者4名参加

蕎麦の刈取りを行った。コンバインでの刈取りが不調だったため、手で刈って、脱穀をコンバインで行った。



り

り

⑤平成24年11月18日 蕎麦唐箕掛け 避難者5名参加

脱穀した玄蕎麦を乾燥させた後、葉やゴミを除去するための唐箕掛け（風選）を行った。



(2) 避難者に蕎麦打ちを楽しんでいただく事業

- ① 平成24年8月25日 第1回蕎麦打ち会 笠間市で実施 避難者2名参加  
 笠間市社会福祉会館を借りて蕎麦打ちを行った。当協議会参加メンバーと避難者2名とが共同で蕎麦打ちを行い、会食した。会食後の交流会で、避難者から、原発事故当日の状況や、避難命令が出た後、ガソリン不足の中を京都まで避難したいきさつなどを聞くことができた。



- ② 平成24年10月21日 第2回蕎麦打ち会 水戸市で実施  
 避難者21名参加

水戸市内の市民センターを借りて実施。蕎麦打ち名人4段の人の指導のもとに、避難者の方々が蕎麦打ち体験に汗を流した。打ちたて、ゆでたての手打ち蕎麦を皆で味わった。連携先のNPO「おたがいさま」のメンバーも駆けつけて来てくれた。会食後3つの班に分かれて交流会を行った。避難者の方々から避難生活の苦しさ、将来への不安など、生々しい実態が報告された。

<アンケート結果> 16枚回収 (とても満足：14名、満足：2名)

- ① 初めての蕎麦打ちを体験して楽しかった。
- ② 地元の人に受け入れてもらって嬉しかった。
- ③ いろいろな避難者と情報交換ができた。



演



交流会



- ③ 平成24年12月02日 第3回蕎麦打ち会 水戸市で実施 避難者5名参加  
第3回の蕎麦打ち会は、自分達で栽培して収穫した新蕎麦粉を使い、収穫祭として行った。会食後、交流会を行った。

<アンケート結果> 5枚回収 (とても満足：4名、満足：1名)

- ・地域の皆さんの暖かい心に触れた。自分も少しほっとした気持ちになりました。
- ・一緒に農作業をやりたくなりました。
- ・いつもお世話になるだけで申し訳ない。避難者同士で自立しなければ。



- ④平成24年11月26日 連携先のNPO「おたがいさま」主催の避難者向け蕎麦打ち会に参加 避難者6名参加 会食後、交流会を行った。



## 2. 事業成果

- ①避難者の方々のストレス軽減に役立った。

避難者は避難先での職探し、生計不安、将来の帰郷の可能性、帰郷が許された時の帰郷の是非等、多くのストレスを抱えている。私達が提供した蕎麦有機栽培作業や、蕎麦打ち会に参加することで、ほっとする時間が持てて、ストレスを軽減することができた。

- ②農作業や蕎麦打ち会で、避難先の住民との交流や、避難者同士の交流ができ、避難先での孤立感を和らげることができた。

- ③農作業に生きがいを感じることができた。これらの事業に参加した避難者の中の5組の方々から、次年度も私達協議会の会員と同じ参加費を払って参加したいとの申し出があった。継続して進めたい。